

平成25年度 峰山・滄浪・寄田地区 まちづくり懇話会 答弁要旨

と き 平成25年9月25日(水) 10:00~12:10
ところ 峰山地区コミュニティセンター
出席者 市 : 市長、向原副市長、知識副市長
総務部長、企画政策部長、市民福祉部長、農林水産部長、
商工観光部長、建設部長、教育部長、危機管理監、
新エネルギー対策監、六次産業対策監
コミュニティ課長、広報室長、外
市議 : 森満 晃議員
地域 : 各地区コミュニティ協議会長をはじめとする
地区住民 65名
(合計 83名の参加)

地区コミュニティ協議会の現状・課題について

1 峰山地区コミュニティ協議会

近々の行事としては、今度の28日(土)の10時から柳山アグリランドでのコスモス開きを実施する。1週間後の10月5日(土)には、江ノ口・眼鏡橋で、第7回星空コンサートを実施する。これも交流人口等の一つであるので、是非、多くの方に集まっていただければと考える。

柳山アグリランド事業については、平成18年から始めている。誰も来なかった山に、多い時10月のコスモスの満開時、1日で3千~3千5百人、年間3万人、研修視察としても5千人の方々が来られる。研修の方々が柳山レストランを使われたり、市街地で食事や宿泊をされたりすることで、大きな波及効果がある。平成22年から自立しているが、これもボランティアでの自立である。少しでも公的支援を受けることで、市の所有地ではあるが、この土地の保全・管理ができるのではないかと考える。従って、あまりにもボランティアによるところが大き過ぎると考える。このような波及効果を含めて、市からの効果的な支援をいただければ、有難いと思っている。

現在、林道の拡幅工事もしていただいているが、ここを大きな魅力ある観光づくりの一大拠点にしたいと考えている。高江インターが今年3月に開通し、来年度は都インターまで開通すると、鹿児島市まで30分で行き来できる。この柳山アグリ

ランド、地元の柳山風力発電、寄田町にある南国殖産のメガソーラー、宮里にあるソーラー、原子力発電所、火力発電所等があるので、一大観光地にしたいということで、いろいろと考えている。

定住促進については、私どもの様々な事業で、定住を促進しようということで、ここ近年、子どもさんのいる家庭を含めて10戸ほどの定住があった。赤ちゃんの声も聞けるような状況になってきた。その中で、やはり、人を増やすには、お店が無く、ガソリンスタンドが無いということが、致命的である。本日の議題にも提出しているが、高江インターの隣接地に道の駅みたいなものをつくって、そこが大きな福祉・防災を含めた拠点になっていければと良いと考えている。500戸定住については、九電などの大きな企業の社宅導入、地域振興住宅の建設、民間の借家建設等が必要と考える。様々な面で、定住促進に御協力をいただければと考える。今、峰山小学校が43名、高江中学校が14名であり、これらが少しずつ増えている。これらが廃校にならないように、この定住促進を図りたいということで、平成18年から私どもの取り組んでいる事業である。

県道43号の拡幅・歩道設置である。同県道に歩道が無いため、通学生が非常に危険を感じながら、毎日、学校へ通っている。市道の中でも、側溝に蓋が無いものもある。これらについても、緊急の課題であるので、御支援をいただければと考える。

農業振興への取り組みについて、当地区は圃場整備されていない状況であるので、整備する方向を取らなければならないと思う。今、地元の企業が9反区画で休耕田を耕作している。これを3区画持っており、一番効率が良い。今、国が進めている農地の中間管理機構等についても御利用いただき、是非、大きな区画での5反、1町歩の区画での農業振興を図りたいと思っている。八間川にある井堰が手動であるが、転倒井堰化等への御配慮をいただければと考える。

六次産業化については、袈裟姫餅を私どもで、52年ぶりに復活したところである。餅米を活用したものであるが、米どころでもあるので、生産・加工・販売という形を「道の駅」の中でもやっていきたいと思う。このように六次産業化として、米を活用したものを取り扱いしたいと考える。

地震・津波・原子力災害・防災対策である。近々、10月には、国主催の原子力防災避難訓練もある。3月には津波避難訓練も実施した。とにかく、住民の安全・安心を守るという面で、原子力を含めて、様々な河川堤防の整備等が大きな課題であると思っている。

このような様々な課題があるが、市と一緒にやりながら、一部公的な御支援をいただきながら、私どものまちづくりができれば良いと考えている。是非、課題解決に御協力いただければ、有難いと考えている。

2 滄浪地区コミュニティ協議会

滄浪地区の現状と課題について、発表させていただきたい。まず、地域の人口実態ということで、話をしたい。どこの地区も同様な現状であるが、当滄浪地区は人口減少と高齢化の中で、地域活性の要である歴史ある小学校も136年で幕を閉じた。先ほど市長さんから、当地区の高齢化率は34%と言われた。実はこれには、九州電力の独身寮が入っているので、実際は45.3%である。このような状況であるが、日常の生活については、海・山・川等の自然環境に恵まれ、風光明媚であり、歴史的伝説も、色濃い土地柄である。住宅も集中しているので、暮らしやすい地域であると思う。しかし、年間の「人口減少」に歯止めがかからず、今では過疎地域となり、他の地域からの人口流入は、ほとんど考えられないため、人口増の見込みは薄く、今後さらに高齢化が進行することが予想されることが課題である。

本日最後の項目で説明するが、このような状況の中で、コミュニティ協議会としては、何か人を呼びよせ、活性化させようという事で、今年度新しい取り組みとして、「閉校跡地利活用事業」を計画して実行している。この事業は、滄浪地区に多くの人に来てもらうと同時に、良いところを知ってもらい、また、地域の住民や一度ふるさとを離れた人達にUターンを呼びかけ、1組でも若い世帯が定住することを考えている。是非、この事業にも御協力をお願いしたい。

次に耕作放棄土地について、説明したい。地区には広大な農作放棄地、即ち休耕田がある。この土地にイノシシを始め、様々な動物が生息し、また、雑草・雑木が生えて、害虫等がいる現状である。昨今の農業所得の低迷や後継者不足等もあり、今後、農業としての利活用は期待できない状況である。

原発3号機増設の話が出た時点では、夢もあり、希望もあり、また、期待もしていた。しかしながら、3号機の先行きが不透明の現在、この土地を荒れ放題にしておくよりも、本日の懇話会で滄浪地区として希望している「地域の中心部を通る道路のバイパス化」としてこの耕作放棄地の一部を利用し、道路建設を実現してもらう提案をしている。この件の内容については、後ほど、また、話があると思うので、その時にしたいと思う。二つ目の提案として、この広大な土地に、降りそそぐ、豊富な自然の力で、発電する「太陽光発電施設」即ちメガソーラーを設置できる大手企業等を誘致してもらいたい。この企業等からの恩恵が地域振興となり、自治会活動資金確保につながるような、事業展開を地域として望んでいるので、ぜひ大手企業等の誘致をお願いしたい。

続いて、高齢化についての取り組みである。冒頭で述べたように滄浪地区の高齢化率は45.3%であり、高齢化は進み、人口の減少は続いている。私どもは現実起こっている、高齢者及び独居世帯等の健康状態と孤独死がないように、どう見守っていくか、現在、見守り体制として、市から委嘱されている「健やかアドバイザー」が各自治会に1名おられる。我がコミュニティ協議会では独自に各自治会より、福祉係として、1名増員している。また、見守者は担当地域だけでなく、全て

の高齢者に声掛けし、週2～3回の見守り結果を、毎月ネットワーク会長に報告することを義務づけて活動している。また、市や社会福祉協議会での「各種サロン」を実施し、高齢者を始め、関係者をコミュニティセンターへ招き、寝たきり防止・ひきこもり防止・健康対策として活動している。

今後も高齢者を見守る事を重点に参加者とサロンの回数を増やすとともに、内容の充実を図りたい。しかしながら、現実では見守者にも高齢者がおり、人が人を見るにも限界がある。そこで、市では「次世代エネルギー」計画をされ、進行中であるが、その中で「スマートグリッド」等を利用して、高齢者等を見守るため、家まで出向かなくても、見守ることができるような、システムを開発・導入して、安心して生活できる、地域環境設備の実現を希望している。

続いて、久見崎公園整備についてである。久見崎公園建設は、過去十数年以前から、地区の要望事項であったが、一旦、立ち消えになった。平成17年度に再度持ち上がり、翌年平成18年度に基本設計ができ、平成19年度から少しずつ工事が始まり、平成24年度にハマボウ側が整備され、トイレ、倉庫、東屋、ベンチが整備された。トイレ等は朝早くから夜遅くまで、非常に多くの人に利用され、重宝されている。特に多い利用者は、工事関係者であると思われる。平成25年度以降の計画として、川内川側の整備となり、この整備に地区を活性させようと歴代の会長が「川の駅」すなわち「物産館」を提案してきた。私どもも実現に向けて、「物産館調査委員会」を発足させ、県内の「物産館」の経営者と「対話研修」を、また、参考のために、他の「物産館」も見学・研修した。また、「県農政普及課」の専門家に実際に来てもらい、資料等を基に、開設にあたり、勉強会を実施し、必要立地条件等の説明を受け、その内容が実施するには、様々な課題があり、これをクリアするために数回の「委員会」を設け、話し合いをした。

今後、この課題、いわゆる問題をどう解決するか、もう少し時間をかけ、研修し、話し合って結論を出そうと、現在、規模・内容について、検討しているところである。この件については、以上のような状況であるので、時間をいただき、活動の経緯・経過を見ながら、関係者と打ち合わせて、次のステップに進みたいと思う。今後も整備については、計画どおり進めていただくことをお願いして、この項は終わりたい。

最後になるが、閉校跡地利用活用事業の取り組みについてである。今回、市から「地域資源利活用事業」の企画があり、その中の一つに「閉校跡地利活用事業」があった。この目的が閉校となった小学校を拠点に、その地域の特性を活かした「自然学校体験プログラム」や地域内外から講師を招いて、数々の分野の「体験教室」などを実施し、人を呼び込むことによって、その土地ならではの「資源として人が集まる場を醸成する」との趣旨であった。滄浪地区コミュニティ協議会として、この事業を「やってみようじゃないか」という事で、市のコミュニティ課に提案し、承認された。具体的には、初めての事で手探り状態の中、市のコミュニティ課、N

POエコリンクさんの指導で、私たち役員も参加して、6月から活動している。先ず、滄浪地区ならではの「資源」として、名所・史跡・景観・芸能等を探し出すため、地域のよいところ・食べ物・人・産業・遊びスポットの5部門に分かれ、実際に地域を探訪し、必要とする物をカメラに収めた。また、資料等も収集し、これらの事を基に検討し、結果を絵地図として、各部門が体験発表した。一例として、海、川での体験では、地引網・たて網・釣り・貝掘り等の発表があった。イベント等に来た人が、実際に自分達で体験し、収穫した魚介類を調理し、味わってもらったりする。また、別な体験として、生徒の皆さんを普段経験することのできない、食事の準備から食卓を囲んで食事をし、食後の語りまで、お客様でなく、「家族」としてお迎えする「民泊」を実施したらどうか等、現在5回の会合を重ね、実現に向け進行中である。

実施にあたり必要な用具類の準備等を含め、内容を検討し、今後、詳細については、担当者と打ち合わせ、推し進めていきたい。我がコミュニティ協議会では、この事業で少しでも滄浪地区を知り、理解をもらい、若い世代に定住されることを望んでいる。ぜひ、御協力をお願いしたい。

以上、5項を滄浪地区コミュニティ協議会での現状と課題の「提言」として終わりたい。

3 寄田地区コミュニティ協議会

寄田地区の現状と今後の課題、計画および市政への要望ということでお話をさせていただきたい。

我が寄田地区は少子高齢化の動きに漏れず、人口は年々減少の一途をたどっており、本年4月の段階で地区内世帯数209世帯、人口は343人、高齢化率は約57%と地区内7自治会の内、ゴールド集落が6自治会と非常に厳しい状況となっている。

また、これまで地区の大きな原動力ともなっていた寄田小学校も昨年3月末で閉校となり、従来から厳しかった地区のコミュニティ活動が先ほど言った人口減少、高齢化と相まって、さらに厳しくなっている。

このような状況の中であるが、小学校閉校により、それまで小学校の行事と連動して行っていた運動会、文化祭などを地区コミュニティ協議会主催で、昨年から実施している。地区のボランティア団体である「里の会」や「こども育成会」、「婦人部会」が夏祭りや文化祭などの際には、出店などを行い、それぞれの参加者の好評を得ており、地区の活性化に繋がっている。また、以前より続いている寄田の地元の焼酎「天狗鼻」についても9年目を迎え、遠くは北海道からも注文もあり、順調に推移している。

しかし、先ほど申し上げたように、人口減少・高齢化により地域活動において、新しいことを行う事が難しくなっており、今後、いかに地区の魅力を高め、新

しい住民を呼び込み、地区の活性化を図っていくことが今後の課題であると言える。

このような状況ではあるが、市によるゴールド集落対策事業の効果もあり、子供をお持ちの若い人の世帯が寄田地区に住みたいという意向を示され、現に数世帯の方が寄田地区に住んでおられる。ただし、地区内の住居が老朽化し、住もうにも住む住宅が少ないという状況であった。その状況を改善しようと、昨年来より、森満市議を通じて借上げ型の地域振興住宅の建設を市にお願いした。また、今回のまちづくり懇話会に寄田地区の議題として取り上げさせていただいた。おかげさまで、旧市営住宅跡地に借上げ型地域振興住宅2棟の建設が決定し、建設に向けて動き出している。この場をもちまして厚くお礼を申し上げたい。

また、買物不便地域支援モデル事業の開始により、天神、上野などの自治会に対して、移動販売車が週1回の頻度で地区を回っていただき、地区の高齢者を中心に大変助かっているとの声を聞いている。ただ、買い物に行くことが不便な高齢者から、できればもう少し巡回の頻度が上がってくれないかとの意見もある。是非、巡回頻度の向上を市の方で御検討をお願いしたい。

住民が住みやすく、また、新たに住んでみようという気にするためには、地区の基本的な利便性の向上が必須となる。具体的には、道路や河川の整備や改修、高速通信が可能となるインターネット環境の整備、携帯電話の受信困難地域の解消、公共交通機関の整備・充実などである。

もちろん地区でできること、住民たちでできることは行わなければならないということは、言うまでもない。しかし、ただいま申し上げたことは、地区住民もしくは自治会、協議会単体では実施することが難しいのも事実である。例えば、当地区には轟川、土川川、十原川の河川があり、年1回河川愛護活動を各自治会で行っているが、高齢者などで活動できなくなっており、ここ2、3年は河川愛護活動ができない自治会も一部存在している。また、河川愛護活動を行っている自治会でも、寄り洲が年々大きくなってきており、自治会活動としての河川愛護活動だけでは、防災の観点から十分な対応ができているとは言い難い状況にある。

また、携帯電話の受信困難地域が山間部を中心に広がっており、防犯や災害対策上、問題となっている。インターネット環境についても、寄田地区においては、ADSLまでしかなく、光回線、通信ケーブル回線などの高速通信は対象外になっている。「人を呼び込む」、「定住人口を増やす」という観点からみると、「住んでみようかな」という人たちがいても、この携帯電話、インターネット高速回線の利用が困難ということで、転入に二の足を踏むというケースも出てきている。

公共交通機関としては、当地区には、くるくるバスが平日に1日5往復、土曜日と休日に1日3往復、それに平日にいわさきバスが1往復運行している。特に、くるくるバスについては、車を使えない高齢者にとって重要な交通手段となっており、大変ありがたいことだと思っている。ただし、寄田方面行のダイヤが昼12:55分発の次が16:40分発となるため、「運行ダイヤ面の改善をしてほしい」、「便数を

もう少し増やせないか」との御意見もある。

このように「人を呼び込む」、「定住人口を増やす」という点で、当寄田地区コミュニティ協議会、各自治会での一層の取り組み、努力は必要であることは、当然であるが、是非、市の方で、これらについて、御検討をお願いしたい。

議 題

議題1 (峰山地区コミュニティ協議会)

高江インター隣接地へ「道の駅たかえ」(仮称)の設置について

峰山地区(高江町)への500戸定住促進のために、南九州西回り自動車道の開通を見越して、平成18年度から手づくり広報チラシの川内駅と鹿児島中央駅での配布や借家確保などに取組んでいる。現在まで子どものいる家庭で10戸の定住が実現した。

薩摩川内高江インターが今年3月に供用開始し、平成26年度には高江インター～薩摩川内都インターが供用開始予定であり、これにより鹿児島インターまで30分の通勤時間に短縮される。

定住促進のためには、買物などの生活環境整備の必要に迫られており、住民の総意として、昨年度から高江インター活用専門委員会(3部会 定住促進、道の駅設置、開通イベントと先進地視察 委員会は4回開催)を設置して、複合商業・生活施設の設置構想実現に向けて取り組んでいる。

「道の駅たかえ」(仮称)構想(案)

国・県・市が関与するサービスエリア的な郊外型の複合商業・生活施設の機能を持つ施設(「道の駅たかえ」仮称)の設置

1 機 能

(1) 施設

ガソリンスタンド、地産物産館(甕島を含めた市内、県内の地産品)、レストラン(営業終了後は学習塾、児童クラブとして活用)、仕出し弁当、診療所(高江診療所を移設)、福祉宅配・買物送迎事業などの機能

(2) 限界集落などの買い物弱者支援機能

福祉宅配・買物送迎事業などの機能

(3) 六次産業化の機能

米の生産・加工品の製造・販売(袈裟姫餅、ぽん菓子、せんべい、もち、甘酒など)による6次産業化の機能

(4) 防災拠点の機能

災害時の食料備蓄基地・自動車道活用避難・災害支援要員・物資輸送の機能

2 場 所 薩摩川内高江インター隣接地（猫岳側）

3 面 積 約 2,500 m²（50m×50m 約 756 坪）

4 受入体制

峰山地区コミュニティ協議会が受託し、次のグループ編成をする。

加工品グループ編成——加工品メニューの充実と安定供給

生産品グループ編成——生産品メニューの充実と安定供給

【企画政策部長】

回答する前に、先ず持って、南風録の記事紹介が冒頭の市長の挨拶にもあったが、当議題の提案地区コミュニティ協議会である峰山地区コミュニティ協議会は、市町村合併後、様々な取り組みをされており、内閣総理大臣表彰を始め多くの表彰を受けられ、高い評価を受けておられる。本日の配布資料の中にも書いてあるが、市が今後、重点的に取り組むべき、六次産業化や大きな課題である限界集落や防災等に焦点をあてられ、検討会を立ち上げられ、研究されていることに、改めて感謝と敬意を表したいと思う。

この議題については、4年前のこのまちづくり懇話会でも、同じような趣旨で、御意見・御要望をいただいた。また、毎年、書面という形で地区コミュニティ協議会から要望をいただいているところである。このインターチェンジ（以下、「IC」という。）周辺の開発計画については、議会からも、様々な形で質問をいただいている。先の6月定例会については、地元の森満議員から、この9月定例会では、別の議員からもIC周辺を今後どうするのかという御質問をいただき、回答している。本市域内において、湯田・西方を含めて、4つのICが建設される構想があるが、現時点において、具体的にどのICをどのように整備・開発するという計画は持ち合わせていないというのが現状である。しかしながら、皆様方も報道等で御案内のとおり、西回り自動車道「阿久根・川内間」の都市計画決定に向けての説明会が9月上旬に水引・湯田地区で、開催されるなど、当初、私たちが想定していた工程よりより早いスピードで整備が進むのではないかと、期待しているところである。今後の道路整備の進捗状況や社会情勢変化や企業・民間事業者の動き等を見ながら検討し、必要な対応をしていかなければならないと考えている。

これが以上総論であるが、今回の峰山地区の議題については、先ほど読み上げたとおり、商業施設やガソリンスタンド・レストランなど、基本的に企業・民間事業者が事業主体になるものがある。その外、行政部門が関与するが、医療福祉・防災・子育てなどの機能も列挙されており、様々な分野に及ぶ広範な内容・規模と認識している。議題にあるように、国・県・市が関与したという提案になっているが、まず、国の考

え方を申し上げると、事業者による直轄区間へのサービスエリアの整備は難しいということ、即ち、国の補助事業は無いということであった。これに関しては、毎年、九州地方整備局へ要望してあるが、当峰山地区コミュニティ協議会長も同席され、国の考え方を御確認いただいていると思っている。また一方、県に対しても、毎年夏、知事要望をしているところである。しかしながら、「整備手法や運営手法など、多くの課題がある」ということで、前向きな回答を得られていない状況である。

言うまでもなく、商業施設の設置というのは、採算がとれるか、安定して継続的に経営ができるかといった、事業者側の判断によるところが大きく、西回り全線開通を見据えた、交通・人の流れがどうなるのか、そのようなものを見ないと施設の規模や内容等は整理できないと基本的に考えている。議題にある国・県・市、特に市が事業主体となった複合的なこの施設整備というものは、現時点では極めて厳しいものであり、公共関与での整備・構想は、今、持ち得ていないというのが実情である。毎年、要望をいただいているが、地域の要望に添えない回答になっていることは、大変心苦しいところであるが、実情を御理解いただきたい。

最後になるが、企業立地・商業施設の動きがあった場合、または、地区コミュニティ協議会で、または、地域の事業者で計画等が出てきた場合には、行政として必要な範囲で支援をする所存である。については、地域の方でも十分御検討いただき、より峰山地区が振興・活性化されることを期待しているところである。

質 問

本日、この会に参加させていただいているが、私たちは転勤族である。初歩的なことをお尋ねしたい。この地区は高江三千石と言われ、米作地であり、農業が非常に発達していると聞いている。ところが、私たちが買物に出るとき、お店が無く、離れた場所まで行かなければならず、不便である。近くに文房具店等のお店があれば、住みやすいと思ったりする。当地区には、近くに農協の支所がある。普通、農業が盛んなところであれば、農協関係のAコープというお店があったりする。以前、佐多にいたことがあるが、そこも不便なところであった。コンビニエンスストアに関しては、大根占まで、出ていかなければならず、非常に困った経験がある。そうした場合、佐多にはAコープがあり、そこには様々なものが売っている。なぜ、遠くまで、買物に行く必要があるかというところ、閉店の時刻が限られており、私たちにとっては難儀であったが、大根占まで行っていた。佐多については、Aコープがあったから、地元の方々は買物ができたと思う。高江には、このように田んぼがいっぱいあり、農業をされている方がおられ、コミュニティ協議会も一生懸命にされておられるのに、何故お店が無いのか、いつも思っている。子供たちにとっても、文房具が売っているところが、近くにあればと考えている。

前置きが長くなったが、国や県が、今の説明で、事業者側の儲けるか儲けないか、利潤を得られるか得られないか、ということ動いていることであれば、市当局からJA

の方へ働きかけることができるのか、できないのかを質問したい。

【企画政策部長】

最後の結論部分からすれば、こうした地域の声について、強制的な指導等はできないと思う。JAさんを含め、民間事業者はそれぞれの判断で、経営を考えておられる。従って、判断されるのは、あくまでもJAさん、または、民間さんである。しかしながら、こうした地域の声があるということは、JAさんについては、公共的な団体でもあるので、機会をとらえて伝えていきたい。

以上が、回答となるが、高齢化が進む中、買物に不便を感じておられる地区は、当峰山地区に限らず、合併により広域となったので、山間部・周辺部や甑島からも同じような声をきく。しかしながら、JAさんを含めた一般民間事業者の立地というのは、情報は伝えられても、基本的に誘導はできないことを御理解願いたい。

行政として、このような買物不便を解消するための施策として、今、講じているのが、先ほど寄田地区の会長さんからもあったが、業者さんへ委託し、ゴールド集落を中心に、定期的に食料品を主にした移動販売を昨年度から始めている。

市の補助金を用いて、峰山地区の白浜自治会だったと思うが、自分達でジャンボタクシーを借り上げて、定期的に皆で市街地のスーパーへ買物に行くという自主的な良いアイデアで、事業を進められている事例がある。市として、できる支援については、研究を加えて講じてまいりたいと考えている。

【商工観光部長】

買物不便地域について、もう少し具体的に説明させていただきたい。これは今年の2月から開始したモデル事業である。実施しているのは生活協同組合コープかごしま、生協さんである。現在、市内で28自治会にこの事業に参加していただいている。特に峰山地区では12自治会、寄田地区3自治会、合わせて15自治会ということで、半分以上を峰山・寄田地区で利用していただいている。トラックで地域を回る関係上、商品を多く積めないが、一応商品としては、400品目以上ということである。商品が無い場合は、事前に申し込み・予約していただければ、その商品も扱ってもらえることになっている。現在、峰山地区では、2～8月までに1,544人の方に利用していただいている。月に200～250人の方に利用していただいている。今後も、地域で希望があれば、この事業も広げたいと考えている。

要 望

この道の駅の関連であるが、今、高江中の校長からもあった。8月3日に市長も御一緒に九州地方整備局へ出向いたところである。その時の道路部長さんの回答は、国は駐車場とトイレはつくる。今後、市と協議をさせていただきたいとの回答であった。今、

国・県と言われたが、田浦や末吉についても、国・県・市である。同じように私どもが先進地視察した、少し大きすぎるが、川辺にしても、同様に国・県・市である。そのような対応をしていただくことが良いのかと思う。もう、来年度に鹿児島市まで開通するのに、時間的に急がないと、他の阿久根、出水等にとられてしまう可能性もある。私どもが資料に書いてあるように、六次産業化や防災拠点も含めて、実施しようということで、毎回、陳情し、この会でも提起している。型どおりの回答でなくて、もう少し、市も国・県へ働きかけをしていただきたい。昔は、水引の小倉から高江町へ買物に来られていた。生活圏を見ると、ICができたので、宮里・水引を含めて、1万6千人程の居住者がある。それから、県の交通量の予測によると、開通前は4千台/日であったのが、開通後は8千台/日になるだろうとっている。原子力関係車も相当数ICを使ってくる。今、宮里のファミリーマートは、噂によると、市内で一番の売り上げと聞いている。夕べの6～7時まで見ていたが、相当な車があり、駐車場が足りないぐらいであった。それだけの需要があると考えられる。そのような面で、早くこの地点に決めていただき、土地についても確保をお願いできたら良いと思う。それに鹿島・手打から魚を入れ込みたいとい話も既に来ている。そのようなことで、海・甕島・この周辺を含めた一大商業生活拠点にこの道の駅をしたいと考えている。そのような面で、是非、市長の高い御決断をいただき、前向きな取り組みをいただければ、非常に皆さんが喜ぶだろうと思う。

【市長】

決断をと言われたが、決断できる状況でないことをまず皆様方へ御理解いただきたい。西回りについては、有料でなく、市来から無料になっている。今後も、ずっと無料である。調査されたと思うが、一時期、八代から田浦まで延びて来て、そのICの中に道の駅ができた。ところが現在、そこは通過路線になってしまい、降りる人が以前の半分にも満たない。いつ、閉鎖しなければならないかという状況まで追い込まれている。今、芦北まで来ているが、芦北から離れた場所に道の駅ができています。これも、恐らく水俣までくると、お客さんが多く降りて来るとは限らないと思われる。本市については、4カ所のICができるので、それぞれが特徴のあるICにしなければならない。今、4カ所から同じような意見が出されている。従って、全線開業するまでに何とかしなければ、恐らく4カ所つくっても、全部つぶれると思う。そのようなことも考えなければ、判断ができないということが一つである。

それと、高江IC、久見崎の公園、港の待合所について、何かをしなければならないということであるが、全部同じようなことをしても、3つとも採算がとれなければ、閉鎖せざるを得ないというリスクも考えながら、判断しなければならない状況である。以前から、峰山地区会長も言われているが、もう少し見極めなければ、大変なことになると考えている。従って、何か地域活性化に繋がるような施設を考えた方が良いのではないかと考える。4つのICの特徴を市として判断していかなければならないと思っているので、今、この時点で、「はい、つくります」と言えないことは、議会で

もずっと申し上げたとおりである。もう少し、鹿児島市まで開通して、その後の見極めが必要であると思っているので、担当部長が答弁したようになったわけである。お互いに良い経営ができることを考えていかなければ、赤字では市が仮に建物をつくっても、経営が成り立たなければ、何もならない。皆で知恵を出さなければならないと思っているところである。

議題2 (滄浪地区コミュニティ協議会)

久見崎町中心部を通る県道のバイパス化

久見崎入口（T型交差点）から原子力発電所までの道路は久見崎地域の中心部を通る唯一の道路である。この道路を朝夕原発関連企業の何百台の車輛の外にクレーン車、トレーラー、ダンプ、ミキサー車等の大型車輛が通過する。これらの車両は、国道3号及び県道44号（京泊大小路線）を通り、川内河口大橋を經由、また、県道43号（川内串木野線）川内方面から集まってくる。特に森満商店から久見崎産業前までが登り坂になっているため、大型車輛においては、騒音と黒い排気ガスをまき散らして、通過しているのが現状である。

このため、河口大橋T型交差点から前田田んぼを通り久見崎町中心部を迂回する形での道路建設を進めていただきたい。

今回要望する新規の道路が整備されると、この車輛関係の問題が解消される。地元としては、交通量の減少、交通事故問題、騒音・排気ガス等から開放され、人も車も家から道路の脇道へ安心して行動できる。また、この新道が田んぼの耕作放棄地を通ることにより、外の放棄地も利用価値が高まり、今後の活性に大いに期待できる。ぜひ実現をお願いしたい。

【建設部長】

県道43号と河口大橋が交わるT字路であるが、ここから、休耕地の多い前田地区の田んぼを通って、山の方を貫いて展示館の先辺りに迂回する県道が考えられないかということである。御指摘のように、森満商店の先から急に狭くなったりして、交通安全対策上の要望がされており、その都度、県へお願いしており、少しずつではあるが、対応はしていただいたところである。

今回の提案については、大変大きな構想ではあるが、これが実現すると、交通安全対策上、耕作放棄地の活用等の波及効果にも繋がり、多くの課題を解決され、非常に素晴らしい提案である。万が一の災害時にも、避難道路・防災対策の道路として、十分な活用が期待されるものである。

ただ、この構想については、大変大きな予算を必要とすること。地権者がかなり多いと予測されるので、地権者の方々の買収に対する同意。農地法に係る農振除外とか、

森林法に係る保安林の解除等の国・県の手続きをクリアしなければならない課題もあるが、非常に効果は大きいと思う。今後、どのような形でこのような道路ができるか突破口を見出す意味でも、道路管理者である鹿児島県・国の関係機関へ積極的な協議・検討をしてみたい。

要 望

今の回答をいただき、良かったと思う。いくらか前を向いてもらったという感じを受けた。是非、前を向いてどんどん進んでいただきたい。というのは、私たちの地区の真ん中を県道43号が分断している。

私たちが子どもの頃、先輩からいじめられていた。その先輩方も年を取られており、朝晩に散歩をされる。季節・気象状況により、山べりを歩いたり、海べりを歩いたりされる。そのためには、この県道を渡らなければならない。御承知のとおり、県道は時間帯にもよるが、ものすごい通行量がある。このお年寄り等は、今まで何らかの形で社会貢献をされてきて、余生を静かなところで過ごされたいという思いでおられると思う。私を含めて、このような方々が安心されて、散歩等を楽しめる地区にしていきたい。先ほどの部長さんのお話は、大変有難いと思う。もっと、市長さんへも伝えてほしい。

【市長】

3号機がどうなるかという時に、私も市長に当選して、3号機をつくるという話からきたわけであるが、福島原発事故以来、この話どころではなくなった。ただ、再稼動の話をしたところであるが、この動きを見なければ、判断ができないということが一つある。

前田の田んぼについては、あれだけ広い面積が放棄地になっているということで、これを再活用するために、どのようなことをした方が良いのか。水田であるので、先ほど部長の答弁のとおり、農用地の変更の手続きをしなければならなかったり、大きな問題が沢山ある。地元の方々の意見を聴きながら考えなければならないということも一つある。

従って、今、提案の道路をつくることにより、前田の田んぼの開発は可能になるのではないかと思うので、しばらく再稼動の動きを見た上で判断したい。また、もちろん県道であるので、県知事が了承しなければ、先に進まないわけである。取り敢えずは、再稼動を待ってから判断しなければならないと思う。仮に、県の了承があれば、次は用地買収が問題である。これについては、地域の方々が一丸となって用地買収に協力してもらわなければならない問題等も沢山かかえているので、もうしばらくお待ちいただきたい。

議題3 (寄田地区コミュニティ協議会)

借上型地域振興住宅の建設

寄田地区コミュニティ協議会においては、水引小学校・中学校との統合を校区民の総意として、平成24年3月をもって寄田小学校は閉校となり、まもなく1年半が経過するところである。

このような中、寄田地区出身で校区外在住の子育て世代層の数家族の方々がふるさと寄田地区での子育て生活を希望されている。しかしながら、地区では少子高齢化や住宅などの老朽化が目に見えて進んでおり、なかなか新規住民が住める住宅、借家などがない状況である。

そこで寄田地区においては、借上型地域振興住宅の建設を要望したい。建設予定地としては旧市営住宅跡地が妥当ではないかと考えている。同地区の今後の活性化対策として、借上型地域振興住宅の早期実現を寄田地区コミュニティ協議会及び校区民一同切に希望したい。

【建設部長】

先ほどの会長さんからの紹介の中で、お礼まで言われたので、答弁は不要かと考えたところである。

この事業は、過疎・少子化対策の関係で、始めている。一番最初は、陽成地区で実施。次に祁答院・八幡地区で実施されており、子供さんのおられる家族が入居されて、地区としては人口が増えており、成果があがっている事業である。

寄田地区におかれては、旧市営住宅跡を提案され、場所的にも非常に良いということで、本年度これに向けて事業を起こしているところである。

現在、市内の建築の指名業者49社に募集要領を送付し、手を上げていただくように、募集中である。業者さんが決まれば、すぐに建築に入れると思うが、現在は業者さんとの質疑・応答中である。しばらくすると、その結果がでると思う。平成25年度は、当寄田地区と東郷の南瀬地区の2カ所で実施することとしている。

その他意見・要望

意見

先ほど、言葉が足りないところがあったので、付け加えさせていただきたい。道路ができると、その周辺の開発が非常にやり易くなる。

私どもの会長（滄浪地区）からも先ほども話があったが、私が子供の頃は先輩も同級生も後輩もたくさんいた。おまけに海水浴場があり、ひと夏に観光バスもよく来ており、よく車両を数えながら、お客さんが来られるのを満足し、賑わいの中で育っていた。私が地元から転出し、また最近、転入したが、事情が全く変わっている。以前は子供達が天下をとっていたが、今では、お年寄りが天下をとっている状況である。閉校跡地利用ということで、何とか昔を取り戻したく、一生懸命考えている。私達の地区だけの問題でもないのであるが、本当に困っている。先日、宮崎県の東国原知事が何とかしなければならぬと言われ、当選された。私も当地区に帰って来て、この現状を何とかしなければならぬと考えていたが、私一人の力では何もできない。本日、このような場があるということで、参加させていただき、私の意見・考えを述べさせていただいているところである。この閉校跡地利用に伴う各種事業については、未だ結論が出ておらず、検討中である。その中身が決まれば、私どもの地区が計画を出してくるので、是非とも後押しをお願いしたい。こうすることにより、私の子供の頃の賑わいとなるのが、1～2年では厳しいかもしれないが、私が高齢者になる頃までには、当地区に人が来てくれる状況になれば良いと考えているので、よろしく御協力をお願いしたい。

【市長】

何とかしなければならぬということは、私も思っているが、できない状況である。この意気込みでされたら、何とかなると思う。未だお若いので、是非頑張ってください。私も市役所で50年を超えているが、やはり、原子力発電所が所在するこの3地区については、ずっと何とかしなければならぬと考えていた。このような意味では、できることとできないことを皆さまに説明しなければならない。そして、できるだけ皆さま方からの様々な要望に応じていくべきことが行政であると考えている。様々な意見をいただきながら、その内で、できるものは率先して実施する方法が、現段階では一番良い政策であると考えているので、よろしくをお願いしたい。

意見

3地区とも、抱えているのは少子高齢化の問題である。寄田・滄浪小学校の跡地をどうされるかということを考えておられる。峰山も小学校の跡地をどうするかを考える前に、高齢化は仕方がないので、いかにして少子かを何とかして防ぐ方法を考えなければならない。学校が無くなれば、地域がなくなるということが、現実的な話である。仮に宿舎をつくっても、老人や定年後の方々が、来られても、結局は高齢化の問題をひきづることになるかと考える。少子の方は一長一短にいかないが、現実的な問題としては、寄田・滄浪・峰山地区についても、原電との関わりを考えるべきである。今、原電の職員の方々が、何処にどのように散らばっておられるか分からないが、峰山・滄浪・寄田

地区に家族共々移って来られるような将来構想があっても良いのではないかと。寄田・滄浪校区で、2つ一緒になって、校区を守ろうという考えがあったかどうか分からないが、どこかへ行くかと考える前に、ここを何とかして守りたいと考えるには、子供の存在は死守しなければならない問題であると思う。人口の絶対数が減る中で、今ある人数を移動させることが、一番現実的であると思う。そうすると、原電との関わりをもった町であるので、原電の人口を何とかうまく配分できるようにするのも一つの方法ではないか。私の島での勤務の経験から、子供が居なくなったところは、集落そのものが無くなっていく。子供や小学校を無くさない方法が一番大事であると考えてるのでよろしくお願いしたい。

要 望

県道43号から原電の正門から寄田方面にかけて、歩道の部分であるが、松食い虫が入って大変な状態である。風が強い場合、歩道を歩く方や通行車両に被害が発生する恐れがあるので、現場を見ていただき、市で判断していただきたい。

【農林水産部長】

現場も確認しているところである。県の指導をいただき、松食い虫の防除・駆除を毎年実施している。枯れた松については、切り倒すしかないが、また、新たな松の育成等にも力をいれているので、御理解いただきたい。

要 望

まず、歩道部分に法面があるが、その枯れた部分のみでも伐採していただかないと危ないと思う。

【農林水産部長】

検討させていただきたい。

要 望

風力発電事業を柳山で地域と一体となって、展開しているが、ここまでお手伝いいただき感謝申し上げます。無事に着工しており、現在、3基の基礎も出来上がり、11月から本格的な風車の建設になる。3月までに12基の風車が立ち上がるので、今後とも御支援の程をお願いしたい。

特に柳山アグリランドの前の風車については、風車公園としての位置付けで整備させていただく予定であるので、これについては、是非、市の絶大なる御支援をお願いしたい。

さて、先ほどのICの「道の駅」の構想であるが、これについては会長（峰山地区）

が8年前からずっと言い続けておられる。私どもも地域として、この構想については、一大念願ということで、ずっとやってきている。本日、実はショックを受けたところであり、一番辛らつな厳しい回答であった気がする。どこでどういう形で、このような回答になったのか、私どもとしては、会長の意見等を聞きながら、絶えず楽しみにしながら、ここが開通する頃には何らかの形で、形の見えるものができるだろうと思っていた。本日の回答を伺い、少し愕然とした。

技術的なこととか、もう難しいことは言いたくなく、会長は様々な構想を練って書かれている。峰山地区については、これだけ頑張っている。合併後、コミュニティ協議会を立ち上げて、一番と言われるぐらい、市の方々からも当地区が市の為に一番頑張っているとわれながら、風力発電は別として、なかなか目に見えた形ができていない。

できたら、御褒美という形で、何とか国等がトイレ・駐車場等を作ってくれるということであれば、そこに小さな多機能型の物産館を確保するような施設等、併せて販売できる施設、何か手始めにつくったらどうかということで、市からも提案をしていただけないかという気持ちである。こうであれば、情に訴えるしかないと思う。何とか御褒美をいただければと考える。このようなことで、提案であるが、ガソリンスタンド等多くの機能でなくても、何らかの形でできないかと考えている。

例えば、風力発電の風車小屋をつくるにしても、市内の方々はこの高速道路を降りられないと考える。しかし、本当に大きな風力発電所ができ、新エネルギー基地としての多くの施設ができてくる。その観光地化を考えようという流れができる中で、高江ICを降りた市外の方にとって、何も無いというのはおかしいと思う。何か加工したり、販売したりする小さな施設でも良い。それと、駐車場とトイレがあれば良いと思う。それ以外のものについては、市長さんが言われたように、その後の車両の通行状況やどのような人の流れがあるのかを見ながら、随時増やしていけば良いと考える。まとめた要望としてではなく、何か御褒美としていただきたいと考える。

【市長】

先ほど説明したとおり、当区間は無料区間であるため、一般の国道と同じで、国ができないということは理解しているところである。ただ、これを市がするのか、どうかということで、市で箱物をつくってほしいということであるが、運営をどこがするのかということも大きな問題である。皆様方地元で運営し黒字にするので、従って、このようなものがほしいということであれば良い。ただ、道の駅をつくって欲しいと言われても、市内に4つのICができるので、それぞれ、道の駅の要望が出ている。御指摘のように、生産・加工・販売する組み立てがあり、土地も運営される方が購入され、建物だけつくってほしいということであれば、考えないでもない。この地域の特殊な施設であるということであれば、先ほども言ったとおり、道の駅の要望は4地域の方々からもそれぞれ出ているが、全部が潰れるようなことをしてもいけない。平成26年度末に少なくとも、ここから鹿児島は繋がる。アイデアを出し、地域として地

域興しの一つとして、何かが欲しいということであれば、方法を模索しても良いのではないかと考えているところである。

要 望

私は8年前から柳山アグリランドの管理をしている。本職は建設業であるが、事業は息子に譲り、現在、ボランティアをやっているところである。一生懸命、年金を使ってやっているが、足りない状況である。是非、水洗トイレと離合場所をつくっていただきたい。柳山に上がって来られる方はお年寄りが多い。健康のため、山に登って良かったと言われるが、離合場所が無く、怖いと言って帰られる。トイレと併せて、安価な離合場所で良いので、こちらで土地については相談をするので、少しでも助成をお願いしたい。

【市長】

離合場所については、ずっと今までも要望があったりして、現地を見ながら、それなりの対応をしているつもりである。ここから行く路線について、大型バスが通れるようにする道路拡張は厳しい。しかし、久見崎から入る道路については、大型バスが入れ、支障の無いように、要望には応えているつもりである。

トイレについては、民民でされる事業に、どこまで市が助成できるかという大きな問題がある。他の場所、例えば藤本の滝についても、トイレの要望がある。どこまで、市と地元の方々との調整ができるか。また、つくことはできても、管理はどこがするか、管理までするとなると、市があちこちの要望に応えることは厳しいので、そこから辺りについて、知恵を絞っていただきたい。

要 望

管理は私たちがしたいと思う。つくってもらえれば良いと思う。今まで管理はしているので。

要 望

御存知のとおり、当高江地区は本市有数の穀倉地帯となっている。おかげさまで、当地区コミュニティ協議会の現状・課題の中で、農業振興の取り組みということで、農地・水保全管理支払交付金事業102.9haで800万円程いただいている。

それ以外で、高江3千石300町歩の水田があるわけであるが、102.9ha以外で耕作放棄地が、40haある。何が原因かと申し上げると、湿田である。要するに今までであれば、小型機械である耕運機、今は大型機械であるトラクターである。このよう

な関係で、この農地の再生に伴う費用の助成ということで、湿田に対する助成をいただ
いていない。圃場整備等大きな課題があるが、102.9haのうち、30haの耕作
放棄地を解消しているのが現状である。それ以外に40haの湿田地帯の耕作放棄地が
ある。湿田に対する助成があれば、聞かせていただきたい。同助成がなければ、市とし
て、単独予算で農地の再生に向けて助成していただければ有難い。

【建設部長】

40haの湿田が低地帯なのか迫田の方であるのかわからないが、低地帯であれ
ば、高江については用水路・排水路に水が常にあるので、暗渠排水という手法は無理
であると思う。湿田解消ということであれば、嵩上げになると思う。山手の方で、水
路が低いところであれば、暗渠排水で湿田解消ができる。これは工法の問題である。

また、土地改良事業の中に補助制度は県営・団体営があるので、耕地課へ繋ぎたい
ので、場所等を確認の上、こちらの方から回答させていただきたい。

要 望

今、部長から回答があったように、高江の場合は海拔0mであるため、暗渠排水等
では効果がない。高江の湿田地帯も限られた場所である。例えば、横の方で、要するに何
回も機械が往復するから、湿田となっている。3～4mの農道であるので、大型トラッ
クが通らないので、小型の2t車で7～8台のシラスを導入してもらい、助成がいただ
ければと考える。シラスを2t車10台分で5万円程であるので、この半分でも助成し
ていただければ有難い。

【農林水産部長】

いつも農業委員として、協力していただき感謝申し上げます。また、峰山地区におか
れては、農地・水保全管理支払交付金事業を実施していただき、併せて感謝申し上げ
る。

将来の耕作放棄地解消、担い手後継者づくりの事業として、「人・農地プラン」とい
う事業に取り組んでいただくことも進めている。これは地域で、今後、農業をどのよ
うにしていくかという事業である。そのプランの中で、耕作放棄地の改善・解消、ま
た、これを農業として、再生できる方法もあるかと思う。できたら、一緒に検討させ
ていただき、同プランとして、解消できるものか、どうかも含めて、検討させてい
ただければと考えている。

意見

私もこの6月議会で、高江IC周辺のまちづくりについて、意見を出させていただいた。市からも様々なお考えをいただいた。市長からも答弁があったように、4つのIC（都、高江、水引、湯田）のなかで、物産館をとという構想も持っておられると思う。このような中で、都ICはもともとあり、水引ICについては川内港からの待合所等がある。私の考えであるが、湯田におかれては、高城温泉や運動場・トンネルの構想がある。そういう中で、旗を揚げて頑張っておられるのは、ここであると思う。前向きに考えていただき、この物産館は高江の方々が物産館として誘致したいのか、地元が商業施設みたいな形でされるのか、多機能に亘る御意見をいただいている。この辺をもう一度、協議されて、観光のために誘致としての物産館なのか、地元のための商業施設にされるのか、8年間協議されたことであると思うが、私も含めて話し合いをさせていただきたい。高江IC周辺の土地等を地元で確保される等、既成事実をつくって方向性を少しでもアピールできるようにしていただければと考える。寄田等からは車でも30～40分かかるが、高江地区の方はお気づきでないかもしれないが、市街地にも近いし、朝夕の渋滞も全くなく、生活圏でも非常に良い場所であると思う。また、地区コミュニティ協議会長さん始め、まちづくりに長けた方、人材も多くおられる。このような場所で、少子化ということは不思議であると思う。今後、どんどん発展する地域であると思う。私も新人であるが、市とのパイプ役として、どんどん使っていただきたい。

滄浪・寄田地区については、高齢化率が非常に高い。10年先、20年先に人が本当に居るのかというのが、現状である。コミュニティ協議会長さん等は、発展と言われるが、正直な話、発展というよりも現状をいかに維持していくかが、精一杯であると思う。そのような意味で各コミュニティ協議会さんも頑張っておられるが、何とか道路や借上型住宅も今度やってもらえるとのことである。それぞれの地区で問題点が違うと思うが、そのような面でも、私の方にも話をさせていただきたい。私の方からも市を通じて、この3町が少しでも良くなればと考える。他の地域よりも市長が思いを持たれているのは、この地域であるので、何とかこの意味でも頑張りたいと思うので、御意見を出していただきたい。

【市長】

長時間に亘り議論いただき、感謝申し上げます。今、森満議員がまとめをされたので、私の言うことも無いが、一番大きな問題が、高江ICの環境をどうするかということである。何回も言っているように、今の段階で高江ICに（道の駅を）つくることは言えない状況であるので、調整しなければならない。ただ、皆さま方が、「我々はこのようにしたいので、市でここまで実施していただきたい」という御意見であれば、前向きに取り組みたい。一番大事なポイントであることも分かっているので、これを生かすために、地元が燃えなければ、「ただ、道の駅を設置してほしい」と言われるだけ

では、どこにもできないと思う。どこにつくっても恐らく赤字で、経営が成り立たないと思う。この程度であれば、我々が運営をしても赤字にならないだろうというようなことで知恵を出し合っていかなければ、長年運営していくために、赤字で経営ができなくなり大変なことである。市で公設により、実施しようという考えは一切ない。市が実施しているところは、どこも失敗している。今、宿泊所等私ども市が抱えている施設が4カ所あるが、どこも赤字で、売却せざるを得ない。しかし、売却しても買い手がない。それも無償でやって、ようやく藺牟田池が売却できた。理由は、建設費に比べて、解体費にもお金がかかるということで、買い手がない。今後、様々な施設を市がつくることは、厳しい状況である。従って、知恵を出されたところには、提案公募型等様々な制度をつくっている。どんどん利用していただければ、可能性は十分あると思う。先ほど言われたとおり、加工工場をつくられる場合、また、市でも新しく助成制度をつくるつもりである。そのようなものを活用された中での提案をしていただければ、「さすが、原発に近い地域を何とかまちづくりをされる」ということが感じられる。また、これがどこの地域よりも勝っているということであれば、市としても考えていかなければならない。どうか、皆で知恵を出していくように、地域振興が図れることをお願いしたい。当然ながら、会長さんがまとめ役で、今までもやってこられた。更なる皆さま方とともに、この地域が発展することを祈念して、本当に長時間であったが、御意見をいただき、感謝申し上げます。

先ほど出た、買物不便地域、コミュニティバスについて、どこからも要望が来ている。また、これをテストケースで始めると、なかなか乗っていただけない。コミュニティバスについて、かなりの路線でやっているが、乗っていただけない。結局、市がお金を出してもバスに乗る方が少ないということで、廃止しなければならない。一旦廃止すれば、復活することは厳しいので、我慢に我慢をしながら、市が助成をしている。コミュニティバスや買物不便地域に出す車についても、皆さんで利用していただくことが大事であるので、このことも踏まえていけば、永続性があると思うので、どうかよろしくお願ひしたいということで、閉めの挨拶としたい。